

1 家庭教師 クイノス

2 15歳まであまりよくない環境に身を置いていたが、尊敬できる神父に出
3 会って神の道に入る。

4 頭はよかったので成績は優秀だが、出自が悪いので聖職者として高い地位
5 は望めなかったため、師匠の計らいで30手前ごろに現職を得た。

6 顔がいいので男にも女にもモテたが、少年期に嫌というほど性的な搾取を
7 間近で見てきたので、あらゆる男女の恋愛ごとにうんざりしている。

8 しかしヒロインの幼い恋心がきれいなまま育っていく姿を間近で見ている
9 うちに、愛とは本来素晴らしいものなのかもしれないと思いなおす。

10 ヒロインからの愛情に、心地よさと罪悪感の両方を抱いている。

11 基本的にゆったりとした、優しい、眠くなるような喋り方。

12

13

14 騎士 ストラ

15 ヒロインより年下の乳兄弟。

16 ヒロインの親戚筋である母が、産後にヒロインの家に身を寄せていたのが
17 出会い。

18 幼馴染として一緒に育ち、自然と「僕は姉さんと結婚するんだ」と信じて

19 疑わず、公言もしていたが、周りの大人は誰も取り合わなかった。

20 同じくクイノスとの結婚宣言を誰にも取り合ってもらえなかったヒロイン
21 と「大人は何もわかってない」と言い合っていた関係。

22 姉さんはクイノスと結婚するし、僕も姉さんと結婚すると十歳くらいまで

23 信じていた。ある日「姉さんはクイノス先生と結婚できないんだ」と気づ

24 いて、少し姉さんを気の毒に思ったりもしたが、自分が姉さんと結婚でき

25 ないとはつゆほども思わず。

26 家柄はヒロインより上だが末っ子のため、両親は王家の娘との縁談を考え
27 ている。全体的にあざと可愛い。

28

29 ヒロイン

30 絶対絶対にクイノスと結婚すると誓って生きてきた豪傑。

31

32 怪しい店の店主

33 ハピエン厨の魔女。

34 不幸になりそうな男女を見ると絶対何とかしたいおせっかい。

35 テンションは低い。

36

37

トラック1 涙の理由

朝

ヒロインの居室

SE:木のドアノック二回

SE:ドアが開く。

SE:足音数歩

クイノス、神学の授業のために、部屋に入ってくる。
ドアはヒロインの背後

【13】

クイ「おはようございます、お嬢様。
今日の授業は少し難しいので、
集中して話を【ヒロインが泣いてることに気づいて黙る】」

クイ「お嬢様……？ 泣いていらつしやるんですか？」

【ヒロイン「話を聞いてくれますか？」】

SE:振り向く衣擦れ

【10】

クイ「ええ……ええ、もちろんお聞きします。
何が辛いのか、私に何もかも話しておしまいなさい。
今日の私は家庭教師ではなく、
迷える子羊に道を示す聖職者です」

SE:足音

SE:椅子を引く

【10】

クイ「さあ、ソファに座って。体を楽にして」



SE:ヒロインの足音

SE:ヒロインが椅子に座る軋み

【ヒロイン「手を握っててください」】

【1】

クイ「手を……？ しかしーいえ、いいでしょう。

今日だけは、年頃の淑女ではなく、

お転婆なおチビさんとして接します」

クイノス、ヒロインのそばにひざまずき、その手を握る。

SE:衣擦れ

クイ「人前で、こんなふうに目を腫らして泣くなんて、

淑女として許されないことですからね。

行儀作法の先生に知られたらひどく叱られることでしょう。

ですからこのことは、私とあなたの秘密にしましょう。

【少し声を落として】もしバレたら、

私もムチで打たれてしまうかも」

【ヒロイン、少し笑う】

クイ「おや、おチビさんが笑った。

さあ、何があったのか、このクイノス神父に話してごらんさい」

【ヒロイン「婚約が決まりました」】

クイ「婚約？ それは……随分突然な」

クイノス、しばしショックを抱くが、すぐに祝福の方向に感情を立て直す。



※上下の動きはあるんですが、ヒロインがずっとクイノスを目で追ってるのでべた足でもいいかなと。

1 【1】
2 クイ「しかし、なんと喜ばしい。心から祝福を申し上げます」
3

4 【ヒロイン「止めてくださらないのですか？」】
5

6 クイ「【困惑して笑いながら】止めるだなんて……
7 なぜ私が？ 理由がありません」
8

9 【ヒロイン「私はずっと先生と結婚すると」】
10

11 クイ「【弱弱しく笑って】ええ、ええ言っていましたね。
12 確かに私と結婚すると。
13

14 ですが、あなたはもう子供ではないのです。
15 名家の令嬢が、年の離れた家庭教師と結婚など、
16 あってはならないことだと分かるでしょう」

17 クイ「そもそも私は聖職者です。
18 妻を娶るわけにはいきません」
19

20 【ヒロイン「私を愛してはいただけませんか」】
21

22 クイ「もちろん、愛していますよ。
23 だからこそ、あなたの幸福を祈るのです」
24

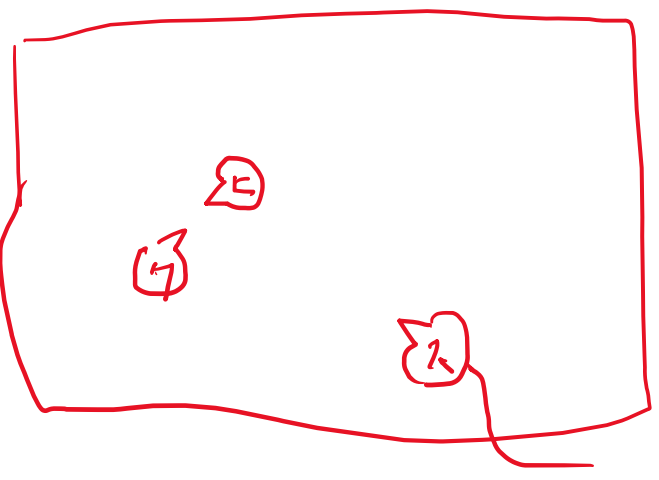
25 SE：ノック

26 SE：ドア開ける
27

28 ストラ、「この時間は神学の授業だから、遊びに行ったら普通に混ぜてもら
29 えるな」と目論んで勝手にドアを開けたところ、泣いてるヒロインがいて
30 ぎよっとする。
31

32 【11】
33

34 スト「失礼します！ 僕も神について学びたいので、
35 お邪魔しても……うえ!? なに、姉さん泣いてるの?」
36



1 【1 ストラの方見て】
2 クイ「【ため息つきつつ】ストラ……淑女の部屋に入るときには、
3 返事があるまで待つものだと言ったでしょう」
4

5 【11】
6 スト「えー？ でもお、クイノス先生の授業中だって聞いたしい……
7 まさか先生が姉さんいじめてるなんて思わないしい」
8

9 クイ「私がいじめたわけでは……」
10

11 スト「そうなの!? じゃあマジで大変のやつじゃん！」
12

13 SE:ヒロインに駆け寄る。

14 SE:しゃがみ込む
15

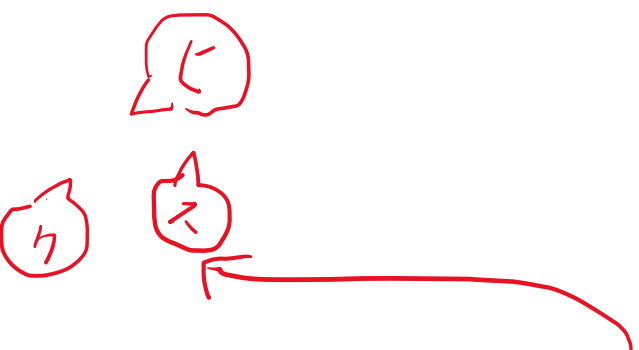
16 【2】
17 スト「姉さん、どうして泣いてるの？」
18 誰かにひどい事言われた？ 僕が殺してこようか」
19

20 クイ「ストラ！ 人の命を軽んじる発言は慎みなさい。
21 まったく……昔は穏やかな子だったというのに」
22

23 スト「【クイノスを見て】騎士としての厳しい訓練が、
24 僕を本物の男に変えたんですよ。
25 それと、姉さんを大切に思う気持ちが。
26 てゆーか今じゃないでしょ絶対、そのお説教。
27 【ヒロインを見て】僕、姉さんのためなら何でもするよ。
28 だからどうして泣いてるか教えて」
29

30 【ヒロイン「なんでもないの」】
31

32 【1】
33 スト「なんでもないのに、姉さんが泣くはずないよ。
34 ねえ、僕には話せない？」
35
36



1 クイノス、立ち上がる。

3 SE:衣擦れ

5 【1】

6 クイ「【深いため息】今日の授業はこれまでとして、私はもう下がります。

7 ストラ、お嬢様を気晴らしの散歩にでも

8 連れ出して差し上げるといい」

10 【2】

11 スト「【クイノスを見て】いいの!？」

12 おお神よ！ 汝の敬虔な信徒たるクイノス神父は天才です。

13 【ヒロインを見て】ね、行こうよ姉さん！

14 姉さんが好きそうなお店見つけたんだ」

16 【ヒロイン「でも……」】

18 スト「大丈夫。先生がいいって言ってるんだから。

19 急いで支度してきて！ 僕、客室で待ってるから。

20 ていうか先生も行く？」

22 クイ「いえ、私はご両親にお話がありますから」

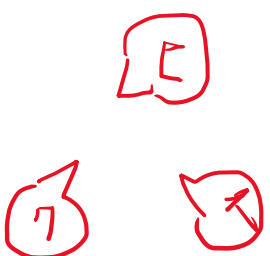
24 スト「え？ 告げ口……？」

26 クイ「【毅然と】相談事です。

27 くれぐれも、お嬢様をお願いしますよ。

28 治安維持部隊の新人騎士殿」

30 スト「了解しました。堅物家庭教師殿」



トラック2 敵に塩

ストラとの散歩中、ヒロインが魔女の店で不思議アイテムを手に入れる。

時刻：日中

メインストリートからアクセサリィ店に入っていく。

SE：ドアベルカランカラン

【8 ヒロインに背を向けて】

スト「こんにちは！」

連れてきましたよ、この前話してた僕の好きな人」

【ヒロイン「あら……！」】

【7 隣に立並んだヒロインを見る】

スト「怒ることないでしょ。本当の事なんだから。

あれ？ いないのかな【9に向かって】……すみませーん！」

SE：ドアが開く

SE：近づいてくる足音

【9】

店主「失礼。奥で商品の用意をしておりました。

そろそろいらっしゃる頃かと思ひまして。

さあ、どうぞ。このペンダントを」

SE：鎖の音

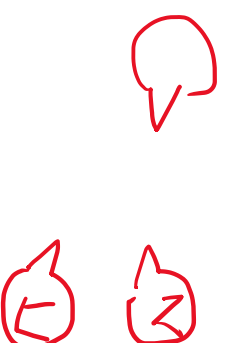
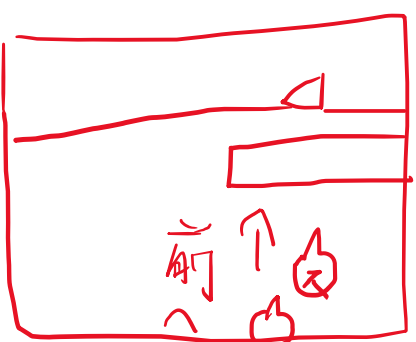
SE：木製のカウンターにペンダントを置く

ストラ、「何急に……？」とやや引くヒロインに耳打ちする。

【7耳元】

スト「【ひそひそ】……、魔女の店なんだってさ。

その人に必要なアクセサリィを選んでくれるって、
最近物凄く人気の店なんだよ」



1
2 【7 9を見て】

3 スト「ねねね、魔女さん。
4 これってどういう効果があるの？」
5

6 【9】

7 店主「これは記憶であり、道しるべです。
8 貴女が正しい道を進むための」
9

10 【ヒロイン、はっとしてペンダントを手取る】
11

12 S E:鎖の音
13

14 【ヒロインを見て】

15 スト「あは。ほーら、やっぱり気に入った。
16 ねえ、それ僕にプレゼントさせてよ」
17

18 【ヒロイン「どうして？」】
19

20 スト「【少し困って】どうしてって……」
21

22 スト「姉さんには、ずっと笑っててほしいんだ。
23 だから姉さんをここに連れてきたのも、
24 プレゼントを贈るのも、
25 全部僕のワガママってこと。
26 ね？ かわいい乳兄弟のワガママなら、
27 姉さんはいつも許してくれるもんね？」
28

29 【ヒロイン「ありがとう。おかげで心が決まった」】
30

31 スト「【照れて】いいよ、お礼なんて。
32 姉さんが何に悩んだのか知らないけど、
33 心が決まったなら解決だ。
34 あーよかったあ！。
35 ねえ、解決祝いに甘いものでも食べに行こうよ」
36

1 【ヒロイン「でも」】

3 スト「“でも”は無し！ ほら、いこう！」

5 ストラ、ヒロインの手を引いて走り出す。

7 S E…ヒロインの手をつかむ

8 S E…足音二人分

9 S E…ドアベルカランカラン



11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

トラック3 あなたと共に

その夜、家庭教師の家に忍んでいくヒロイン。

「婚約が決まった令嬢が、こんな時間に男の家を訪ねるなんて」と咎めるが、あまりに寒い夜なのでとにかく家に入れてしまう。

時刻：夜

場所：クイノスの家

SE：ベタですけどフクロウ鳴かせといてください

SE：ドアノック（軽めの金属ノッカーで木を叩く奴）

【間を3秒 風の音とか入れて寒そうに】

SE：ドアが開く

【9 数歩離れた距離】

クイ「こんな夜更けに、どなたです？

何か困ったことでも——お嬢様!?

なぜこんな時間に……!」

クイ「あなたは婚約が決まってるんですよ？

聖職者とはいえ、男の家にとった一人でくるなんて、

【困り果て】一体どんな誤解を招くか……!」

SE：風の音

クイノス、寒さに震えるヒロインを見ていられなくなり、その肩を

出して中に招き入れる。

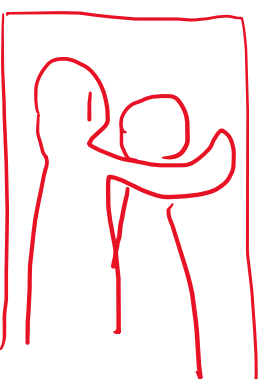
クイ「ああ、まったく……凍え死にさせるわけにはいきません。

【9↓3】人に見られる前に、さあ中に」

SE：足音

SE：衣擦れ

SE：ドア背後で締まる



1 【3】
2 クイ「こんなに冷えて……！」

3 すぐに迎える馬車を呼びますから、
4 暖炉の前で温まって【ヒロインに抱き着かれて黙る】

5
6 【1】

7 クイ「あえて厳格に」レディ。

8 聖職者に抱き着くなど……大変な冒険です。

9 どうか、適切な距離を保っていただけませんか？」

10
11 【ヒロイン「あなたを愛しているんです」】

12
13 クイ「少しキツく」いい加減にしないで。

14 愛してるなどと、二度と軽々しく口にしてはいけません。

15 【失望】まったく……あなたは知っているとっていました。

16 私が、何人の婦人にその言葉を向けられたか。

17 そのたびに、私がどれほどの嫌悪感を抱いたか」

18
19 【ヒロイン「それでも、私があなたを愛してると言ったら？」】

20
21 クイ「深いため息」まだあなたが、

22 汚らしい肉の欲望を私にぶつけるのなら、

23 私は今すぐ奥の部屋に行って鍵をかけましょう。

24 あなたがここを去るまで、何日でも」

25
26 【ヒロイン、耐えられず泣き出す】

27
28 クイノス、初めて見るタイプの泣き顔に少し動揺しつつ。

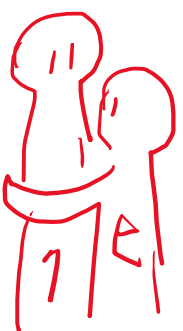
29
30 クイ「泣いたところで、どうにかなることではないのです。

31 嫁ぎ先であなたが純潔でないことが知られれば、

32 あなたも、あなたの家族の名誉も地に落ちることになる。

33 あなたを大切に思うからこそ拒絶するのです」

34
35 【ヒロイン「では私と逃げてください」】



1 クイノス「一夜限りの愛」を求められていると思っていたので、駆け
2 落ちの提案に面食らう。

4 【1】

5 クイ「に……げる……？ あなたと……？

6 そんな……ありえない。

7 私はしがない聖職者で、逃げた先であなたに

8 贅沢をさせてあげられるような蓄えはありません。

9 あなたに想像できますか？

10 日々のパンを得るために、汗を流す生活が」

12 【ヒロイン「ずっと想像して生きてきました」】

14 クイ「ではあなたは、私と街を出る覚悟で

15 ここに来たというのですか。

16 地位も名誉も財産も、家族も、保証された未来さえ捨てて」

18 S E:肯定の衣擦れ

20 クイ「【あっけに取られて】そう……ですか。

21 それほどの覚悟とは。

22 【小さく】神よ、私はどうしたら」

24 【1→9 手を引く距離】

25 クイ「とにかく、少し火に当たりましょう。

26 ドアの近くで、いつまでも凍えていては——ね？」

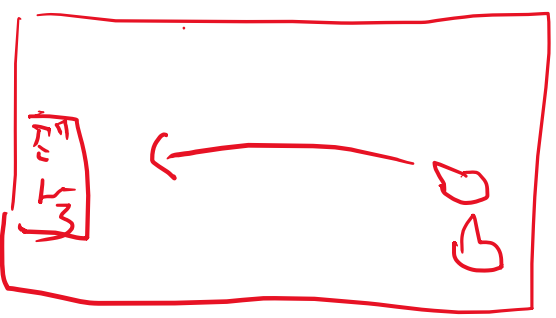
28 ヒロイン、クイノスに導かれてソファに座る。

30 S E:足音

31 S E:暖炉の音フェードイン（徐々に忘れる）

32 S E:ソファに座る

34 クイ「さあ、ブランケットを」



1 SE:衣擦れ

2
3 クイノス、ヒロインの斜め前に座る。

4
5 SE:ソファに座る

6
7 【10 暖炉を見て】

8 クイ「さて……と。どうしたものか。

9 あなたは私が拒絶したとしても、

10 修道女にでもなるつもりなのでしょうし」

11
12 【ヒロイン「どうしてわかるのですか？」】

13
14 クイ「【少し笑って】わかりますとも。

15 だからこそ……もっと早くいとまごいをすべきでした」

16
17 【ヒロイン「いとまごい？」】

18
19 SE:衣擦れ

20
21 【9 ヒロインを見て】

22 クイ「今朝、ご両親にお話しをしてくと言ったでしょう？

23 今日限りで家庭教師を辞め、お嬢様には

24 二度と会わないと伝えてきたのです」

25
26 SE:衣擦れ

27 SE:ソファの軋み

28
29 【ヒロイン「なぜそんな……！」】

30
31 クイ「なぜって……そうすべきだからです。

32 ご両親も、あなたの気持ちは昔からご存じでした。

33 しかし、きっとあなたがいつの日から夢から覚めて、

34 相応しい男を愛するだろうと信じていた。

35 その結果がこれです」

⑤
⑦

1
2 【ヒロイン「恋心を甘く見過ぎです」と暖炉を見る】
3

4 【10 暖炉を見て】
5

6 クイ「ええ、本当に。
7

8 厄介なものです——【自嘲】恋心とは。
9

10 あなたを縛り付けてでも、
11

12 家に帰してまともな男と結婚させるべきだと
13

14 頭ではわかっているのに」
15

16 クイ、神に背く覚悟を決める。
17

18 クイ【深呼吸ゆっくり】
19

20 クイノス、立ち上がってテーブルに近づきつつ。
21

22 S E::立ち上がる
23

24 S E::ソファの軋み
25

26 S E::数歩離れる足音
27

28 【9 ヒロインに背を向けて】
29

30 クイ「お嬢様の家庭教師を辞めるにあたり、
31

32 いただいたものがあります。
33

34 私がつつがなく次の職を見つけられるように——と」
35

S E::足音ストップ
26

S E::紙かさかさ
27

28 【9 ヒロインを見て】
29

30 クイ「紹介状です。
31

32 これさえあれば、この国で仕事に困ることはありません。
33

34 ですが——」
35

S E::紙を破く
34



【9】

クイ「【晴れやかに】もう必要ありませんね。
この国を出るのなら」

【ヒロイン、ガタツとなって立ち上がり、抱き着く】

SE:立ち上がる衣擦れ

SE:ソファの軋み

SE:走る音数歩

SE:抱き着く衣擦れ

【1】

クイ「おっと……！」

まったく……なんだダメだと教えても、
あなたはいつもおチビさんみたいに飛びついてくる。
けれど……私が捨てる物に対して、
あなたが捨てる物はあまりに多い」

クイ「だからもう一晩だけ、よく考えてください。

考えてもまだ私と逃げたいと思うなら、
明日の深夜、零時の鐘が鳴り終わる前に、
町はずれの朽ちた教会で落ち合いましょう」

【ヒロイン「今すぐ逃げては？」】

クイ「今すぐ？ 無鉄砲もそこまで行つては無謀です。
準備もありますから、決行は明日の夜に」

【ヒロイン「証にキスをください」】

クイ「証？ ああ……どうやら賢いおチビさんは、
私があなただを上手い事丸め込んで、
家に帰そうとしてるとお疑いのようですね。
それほど信じられない男と駆け落ちをしよう？
やはり無謀かもしれません」

1 【ヒロイン、落ち込む】

2

3 【1】

4 クイ「悲しい顔をしないで。

5 からかいすぎましたね。

6 お詫びにキスを」

7

8 【浅くついばむキスから、軽めのディープキスに至る。お上品な感じで長
9 めにお願いします】

10

11 【ヒロイン「どうして上手なの？」】

12

13 クイ「【わざと驚いて】上手でしたか？ 不思議ですね。

14

クイノス神父が聖職者になる前、

15

どんな人間だったかに秘密がありそうですが……」

16

17 クイ「そんなに不安そうな顔をしないでください。

18

神に誓って、人を傷つけたことはありません。

19

ただ、あなたが思うほど潔白ではない。

20

さあ、もう迎えの馬車を呼ばなくては。

21

あなたの未来に幸あらんことを」

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

1 トラック4 裏切り

3 SE…ドアの向こうから荒々しい足音

4 SE…ドア各

6 荷造り中、ストラが突然部屋に入ってきて驚くヒロイン。

8 【13】

9 スト「姉さん、婚約ってどういうこと!?

11 【9↓1】

12 スト「いつ決まったの? 相手誰?

13 なんて僕に相談してくれなかったの?

14 この前泣いてたのってその話?」

16 ストラ、ずかずかとヒロインに歩み寄りながら詰め寄る。

17 ヒロインはひっそり今夜旅立つ準備中。

19 【ヒロイン「落ち着いて」】

21 スト「落ち着けるわけないよねえ!?

22 だって姉さんは僕と結婚することになってたのに!」

24 【ヒロイン「なってないけど」】

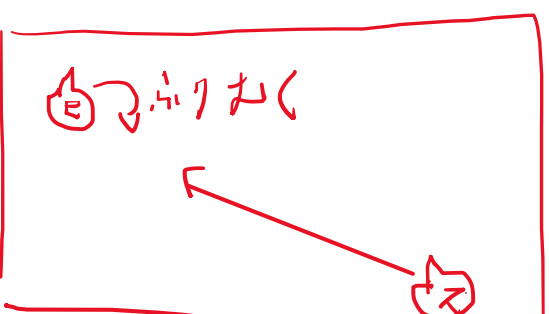
26 スト「僕の中ではなったの!

27 あのさあ、姉さんてほんと……!

28 とにかく、その話断ってよ。

29 断るよね?」

31 【ヒロイン「もう決まったことだから」】



1 【1】

2 スト「決まったことって何!? 知らないよそんなの!

3 姉さんと結婚するために僕が今までどれだけ

4 頑張ってきたと思うんだよ!?

5 騎士になったのだって、痛いなんて嫌だけど、

6 このままじゃ王族のわがまま娘に

7 婿入りさせられちゃうから仕方なくさあ!」

9 ストラ、ヒロインの荷物に気づく。

11 スト「……何? その荷物。

12 旅行の予定なんて聞いてないけど……。

13 どこ行くの? いつのやつ? 僕も行きたい」

15 【ヒロイン「私駆け落ちするの」】

17 スト「かけ【叫びかけてぐっとこらえる】——!?

18 【声ひそめて】駆け落ちって……!？」

20 【ヒロイン「あなたが勇気をくれたから」】

22 スト「僕が? 勇気って……

23 ああ……! 昨日の?

24 いやあの……あのちよつと……

25 ちよつと待ってね。凄い嫌な予感してる今。

26 いやーそれさあ……それ……

27 相手クイノス先生でしょ?」

29 【ヒロイン「誰にも言わないでくれるわね?」】

31 スト「そりや……言わない。言わないよ。言わないけど。

32 でも……でもさ、でも。

33 それじゃ僕は? もう姉さんに会えないってこと?

34 【弱弱しく】そんなの……そんなの嫌だよ。嫌だ」

36 ストラ、手近なソファに力なく座る。

SE:ソファに座る

SE:ソファの軋み

【ヒロイン「手紙を書くから」】

【9 顔を背けて】

スト「手紙なんて……もらっても嬉しくない！

僕が欲しいのは姉さんなのに。

ずっとそう言ってたのに……！」

【ヒロイン「ごめんなさい」】

スト「謝ってほしいわけじゃなくて、僕は——

【ヒロインに抱きしめられ、はっとして黙る】

SE:抱きしめる衣擦れ



【1】

スト「こうやって抱きしめれば、

僕が黙ると思ってる？」

【ヒロイン「落ち着くでしょう？」】

スト「落ち着くけど……ッ

もうこうやって抱きしめてもらえないんだって思って、

またわけわかんなくなる」

スト「ねえ、結婚が嫌なら僕と逃げようよ、姉さん。

僕、姉さんと一緒なら全部捨てられるから。

仕事もするよ。斧を持って木こりなんかしてさ。

猟師もいいかも。

僕の持ってる服や宝石も全部売って家を買おう。

どう？ いい考えでしょ？」

【ヒロイン、答えない】

【1】

スト「【拗ねて】何も言ってくれないんだ？

姉さんはいつもそうだよね。

僕が本気で何言ったって、子供の戯言だって、聞こえないふりしてさ」

【1 立ち上がりながら】

スト「は〜……もぅいいよ。わかった。

止めても無駄みたいだから、少し一人で考える」

SE:立ち上がる衣擦れ

SE:ソファの軋み

【ヒロイン「考えるって、何を？」】

【1↓9 ヒロインに背を向けながら】

スト「ん〜？

さて、何をでしょう。

おしえてあげない」

SE:遠ざかる足音

SE:ドアが閉まる



トラック5 代償

場所：外
時刻：深夜

SE：フクロウ

SE：ヒロインの足音

SE：朽ちたドアを開くぎいー音

SE：足音タイルに変化

【9】

スト「あ、来た来た」

部屋の中央で手を振るストラ。
訳が分からず固まるヒロイン。

スト「あは、びっくりした？」

SE：ドアを閉める

SE：ためらいがちの足音数歩

【ヒロイン「先生は？」】

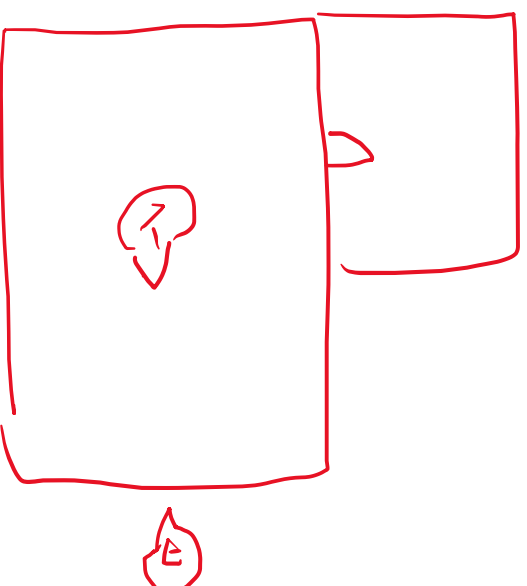
スト「【ため息】あのさあ……

第一声が“どうしてここに”じゃなくて
“先生は？”なの、さすがにひどくない」

【ヒロイン「ここで待ち合わせていたのに」】

スト「まあいいや。

あのね、怒らないで聞いてほしいんだけど……。
全部ばらしちゃったんだ。
姉さんは今夜家庭教師のおじさんと
駆け落ちするつもりですよって」



1 【9】
2 スト「そしたら当然、クイノス先生は
3 女を盗んだ犯罪者ってことになる。
4 それ教えたら、大慌てで逃げ出したよ」
5
6 ストラ、ゆっくりヒロインに歩み寄る。
7
8 SE:近づいてくる足音
9
10 スト「で、家庭教師と駆け落ちしようとした女なんて、
11 今後ろくな嫁ぎ先もないでしょ？」
12
13 SE:足音ストップ（印象的に）
14
15 スト「だから姉さんは僕の婚約者になったの」
16
17 【ストラ、ヒロインが逃げ出そうとするのを、背後から抱き寄せる。】
18
19 SE:踏み出す足音
20 SE:捕らえる衣擦れ
21 SE:少しジタバタ
22
23 【13↓6】
24 スト「おっと！ ダメダメ逃がさないよ。
25 というか、どうして逃げるの。
26 どこに行くつもり？ 先生だってもういないのに」
27
28 【ヒロイン「先生は逃げたりしない」】
29
30 SE:ジタバタストップ
31 【6】
32 スト「なんでそう思うの？
33 実際ここにいないじゃん。
34 僕の言葉より、ここにいない男を信じる理由って何？」
35



1 【ヒロイン「愛してるから」】

2

3 【6】

4 スト「愛……【ぼそと】んだよそれ。」

5 あーあ！ せっかく丸く収まる方法見つけたのになぁ！

6 姉さんがそんなだから、僕が悪者になるしなくなるんだ」

7

8 【ヒロイン「どういう意味？」】

9

10 【1】

11 スト「来なよ。先生に会わせてあげる」

12

13 【9 言い終わりに背を向ける】

14 スト「言っておくけど、全部姉さんのせいだから。」

15 家族を、僕を、姉さんを大切に思ってる人を、

16 全員ないがしろにした姉さんが悪いんだからね」

17

18 S E:歩き出す足音×2

19 S E:ドアを開ける（木戸 押し戸）

20

21 【3】

22 スト「ほら、そのベッドで寝てるの、誰だかわかる？」

23

24 【6】

25 クイ「う、うう……」

26

27 【ヒロイン「先生!?!」】

28

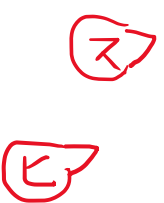
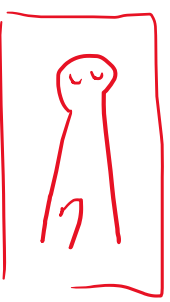
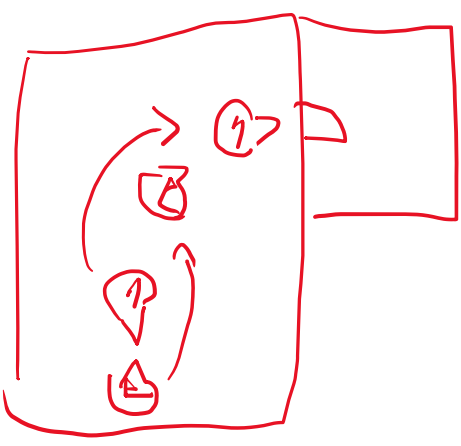
29 S E:驚愕の衣擦れ

30

31 ストラ「大丈夫、薬で眠ってるだけ。——今はね」

32

33 【ヒロイン「どういう意味？」】



1 【3】

2 ストラ「姉さん次第って意味だよ。

3 姉さんが僕と結婚するなら、

4 先生を説得して、一人で街を出てもらう。

5 新しい紹介状も僕が書くよ。

6 けど姉さんが僕から逃げるなら」

7 【3耳元】

8 ストラ「先生のこと、殺しちゃうかも」

9 S E 驚愕の衣擦れ

10 【1】

11 ストラ「どうする？ 僕やだなあ、先生のこと殺すの。

12 いい人だし、僕も大好きなんだ、先生のこと」

13 ストラ「でも姉さんの方が好き。ずっと好き。

14 一番大事。姉さんの気持ちとか、思いとか、願いとか。

15 そんなの全部どうでもいいくらい好き」

16 【9】

17 クイ「ストラ？ そこにいるんですか？

18 一体何が……」

19 ストラ「【ひそひそ】喋っちゃダメだよ。

20 【クイノスを見て】先生、心配しないでください。

21 姉さんは僕が保護しました。

22 手紙を置いてありますから、それを読んでください」

23 クイ「手紙……？ 一体どうなって…… 【頭痛】うぐ！」

24 ストラ「頭、凄く痛いでしょ？

25 薬の副作用なんです。

26 でも、明日にはマシになるはずだから……

27 そしたら手紙を読んで、町を出て。

28 それが先生と姉さんのためだから」

【9】

クイ「何を言っているんです？

そこにお嬢様がいるんですか？

お嬢様、ご無事ですか？ お嬢様……！」

【3 耳元】

スト「【ひそひそ】もう行くよ、姉さん」

SE:足音二人分

クイ「待ちなさい！

その人がこんなことを望むとでも？

ストラ、今ならまだ引き返せます」

【3 クイノスを見て】

スト「【カチンときて】あのさあ！

自分だけが姉さんに愛されてるってその自信、何？

今まで姉さんに愛されてても、

子供になんて興味ないって顔してたくせ急にさあ！」

スト「あんた知らないだろ？ 姉さんが毎年毎年、

あんたの誕生日に何を贈ろうかどんな顔して悩んでるか。

その日あんたと何をしたのか、どんな顔で話すのか！

知ろうとしなかったくせに」

スト「姉さんは僕が幸せにする。

あんたなんかには渡しても、姉さんを不幸にするだけだから。

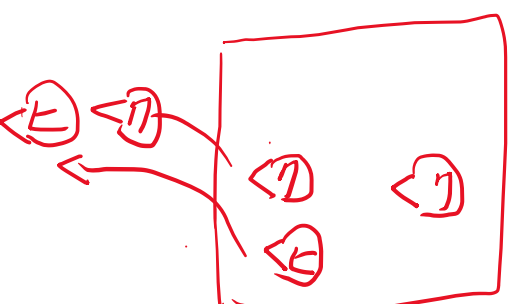
負け犬はそこで一生吼えてろよ！ ほら、行くよ姉さん」

ストラ、ヒロインを無理やり部屋から押し出し、ドアを閉める。

SE:衣擦れ

SE:足音×2

SE:ドアボタン



1 ストラ、深い深呼吸で自分を落ち着かせ、のちに感情をぶつけてしま
2 った自分の幼稚さを苦々しく思う。

3
4
5 【9 うつむき加減で】

6 スト「あーあ、怒鳴っちゃった。柄でもない……」

7
8 【ヒロインを見て】

9 スト「そんな顔しないでよ、姉さん。全部本音だし。

10 【切り替えて】さ、家に帰ろう。僕の家、ね？」



11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

1 トラック6 好きって言ってよ

2 人形のように冷たく、ストラを受け入れないヒロインに業を煮やし、クイ
3 ノスの命をちらつかせながら自分に服従させようとするストラ。

4 ストラが想いを遂げた直後、ヒロインはクイノスの予言通り窓から身を投
5 げて自殺する。

6 しかしその瞬間、時間が前夜に巻き戻るのだった。

7

8 場所…ストラの部屋

9 時刻…夜

10

11 S E:ベッドの軋み

12 S E:軽めの衣擦れ

13

14 ストラはヒロインをベッドに押し倒し、無反応なヒロインにキスをし
15 ているが、人形のように反応を返さないヒロインに、悲しみと苛立ちを募
16 らせる。※この時点でヒロイン全裸です

17

18 【ストラ、ディープキスの吐息10秒ほど】

19

20 【1】

21 スト「ねえ、キス気持ちいでしょ？」

22 姉さんからも、舌絡めてよ」

23

24 【ヒロイン、無反応】

25

26 【1→9 ヒロインに背をむけつつ】

27 スト「ふーん……？ そうやって意地悪するんだ。

28 あーあ、なんかつまんなくなっちゃった。

29 廃墟に人さらいがいるから捕まえろって、

30 警備兵に通報してこよっと」

31

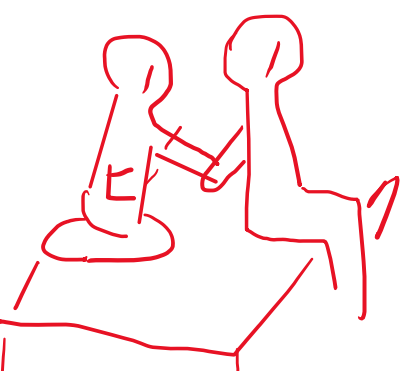
32 ストラ、ベッドから降りようとする

33

34 S E:ベッドの軋み

35 S E:衣擦れ

36



1 【ヒロイン「待つて！」】

2
3 ヒロイン、ストラの腕をつかんで引き留める。

4
5 SE：強めの衣擦れ

6
7 【9 肩越しにヒロインを見て】

8 ストラ「何？ 今更どうしたの？

9 僕とキスしたくないんでしょ？」

10
11 【ヒロイン「あなたの望む通りにするから」】

12
13 SE：衣擦れ

14 SE：ベッドの軋み

15
16 【9 ヒロインを見て】

17 スト「僕の望む通り？ 何それ？

18 僕の望みは、そうだなあ。

19 聖職者のくせに、婚約者がいる令嬢を

20 連れ去ろうとした犯罪者に罰が下ることかな。

21 腕を切り落としたうえで、縛り首かな？

22 楽しみだねえ、姉さん。

23 たぶん公開処刑だから、一緒に見物に行こうね」

24
25 【ヒロイン、泣きだす】

26
27 【6→1】

28 スト「【慌てて】ちよっちよちよ、泣かないでよ姉さん。

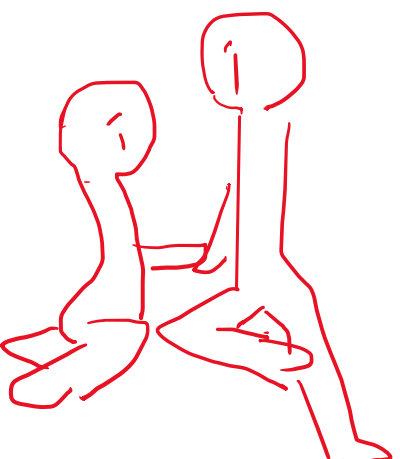
29 ごめん、ちよっとした冗談、冗談だつて。

30 そんなことしないしない。

31 しないから、ね？

32 ほら、キスの続きしよ？ 僕もそうしたいから」

33
34 【ディープキス30秒くらい長々ください】



1
2 【1】
3 スト「ほら、ちゃんと上手にできるじゃない。
4 姉さんのキスがあんまりいやらしいから、
5 僕もうたってきちゃった」
6

7 【7 耳元】

8 スト「ねえ、これ舐めて。
9 床にひざまずいてさ。
10 姉さんの小さな口でくわえて、
11 喉の奥までのみ込んで、
12 涎でべとべとにしてほしいんだ。
13 いいよね？ お願い姉さん」
14

15 【ヒロイン、無言でベッドから降りる】

16
17 S E:衣擦れ

18 S E:ベッドの軋み

19
20 【7→5】

21 スト「やってくれるの？ やったあ！
22 姉さん大好き！」
23

24 S E:ズボンの紐ほどく

25 S E:ズボンおろす衣擦れ

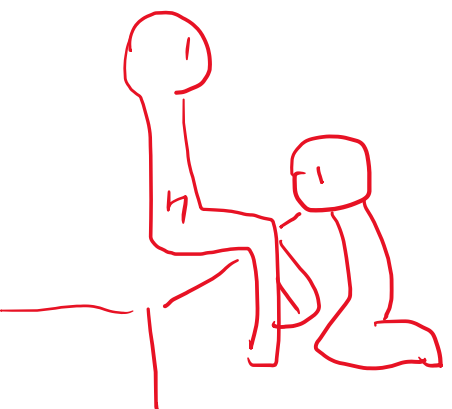
26
27 【1 上から】

28 スト「歯、たてないようにね。
29 これが後で姉さんの中に入るんだから」
30

31 スト「舌ゼーンぶつかって、美味しいもの舐めるみたいに、
32 べろーって舐めるの。
33 ほーら、がんばって」
34

35 S E:フェラ音開始 舐める程度

36



1 【1 上から】

2 スト「あはは！ そうそう。うわあ、すごい。
3 あの姉さんが本当に僕にフェラしてる」
4

5 スト「やばいやばい、興奮だけで出ちやいそう。
6 ね、先っぽにキスして。ちゅっちゅって。
7 あは、そう。あはは、くすぐりたい。
8 そのまま舐めて、舌の先尖らせて、中に入れて。
9 あー、いい、きもち……」
10

11 【吐息二十秒程度】

12
13 スト「ねえ、しゃぶって。そのまま口の中に入れて、
14 下品に音立ててき。
15 舌絡めて、吸って。ね、焦らさないで」
16

17 S E:深めのフェラ音

18
19 スト「あ……！ そう、すごい気持ちいい。
20 これで初めてってホント？
21 信じられないな、だってこんな……ああ……！」
22

23 【以下のセリフ、吐息混ぜつつ、とぎれとぎれに】

24
25 スト「もっと深くくわえられる？ 喉のほうに、ぐーって。
26 あ、ごめんごめん！ おえってなっっちゃうね。
27 浅いままでいいよ、続けて」
28

29 スト「唇すぼめて、もっと強くて大丈夫だから」
30

31 スト「疲れた？ ごめんね？
32 もうちょっと、もうちょっとだけ」
33

34 スト「あー、やば。やば……ん……」
35
36

1 【1 上から】
2 スト「【歯を食いしばり】ふー……ああ……ダメもう限界。
3 姉さん、もう口はなしていいよ」
4

5 SE:フェラストップ

6
7 スト「ほら見て、姉さんが舐めてくれたから、
8 もう爆発寸前って感じ。
9 次は、お礼に僕が舐めてあげるね」
10

11 【ヒロイン、ひきつる】
12

13 スト「大丈夫、怖くないから。
14 ほら、ベッドにお尻付けてすわって、
15 舐めやすいように足大きく開いて」
16

17 【ヒロイン「このままいれて大丈夫」】
18

19 スト「このまま入れたりしたら、姉さん怪我しちゃうよ。
20 できるだけ痛い思いしてほしくないんだ。
21 恥ずかしいのはわかるけど……言うこと聞いて。ね？」
22

23 【ヒロイン、しぶしぶ従う】
24

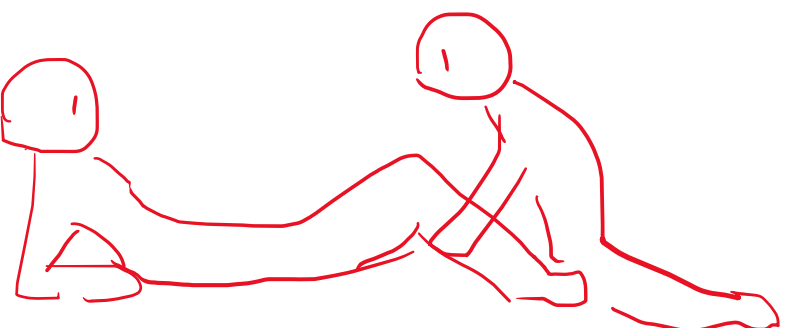
25 SE:ベッドに上がる衣擦れ

26 SE:ベッドの軋み

27
28 【1 下から】
29

30 スト「ほら、やっぱり全然濡れてない。
31 足、ちゃんと開いててね」
32

33 スト「【深く息吸って】ふーん、これが姉さんのおいか。
34 美味しそう。いただきまーす」
35



1 【以下のセリフ織り交ぜつつ、クンニの舐め音適宜混ぜてください】

3 S E:舐める水音

5 【1 下から】

6 スト「こら、脚閉じないで。我慢して開いてて」

7 スト「ふふ、声出てる。きもちいい？」

8 スト「濡れてきた……分かる？ ぬるぬるしてる」

9 スト「指、入れるね。怖くないから」

11 ストラ、舐めつつヒロインに指を挿入。

13 S E:指挿入の水音

14 S E::ゆっくり出し入れ

16 スト「中、ヒクヒクしてきた。

17 クリ舐められるの気持ちいいんだ」

18 スト「イケそうならイっていいからね。

19 我慢しちゃダメ」

21 【クンニの舐め音のみ 30 秒程度】

23 【ヒロイン、抵抗むなく絶頂し、体がはねる】

25 S E:衣擦れ

26 S E:ベッドの軋み

28 スト「はい、上手にイケました。

29 んー。姉さんの中、柔らかくてぬるぬる。

30 これなら大丈夫そう」

32 S E:指を抜く音

34 ストラ、ヒロインにのし掛かる。

2 SE:衣擦れ

3 SE:ベッドの軋み

【1】

ストラ「いれるよ。力抜いて」

SE:挿入音

スト「うわせつま……」

姉さんの中、やだやだ出てってって、
僕の事押し返そうとしてるみたい。
でも、出て行ってあげないから」

SE:肉を打つ音（がつついてる感じで激しめに）

【ピストンの吐息1分程度ください】

スト「ああ、気持ちいい……！

姉さんのなか、よすぎて……

腰止まんない……！

ごめんね、激しいよね？

ごめんね、ごめん……！」

【セリフ混ぜつつ、ピストンの吐息長めにください】

スト「好き。姉さん。好き、好き」

スト「愛してるんだ、ごめん。愛してるから」

スト「好きって言って。姉さんも、僕の事好きって。

お願い、お願い」

スト「あ、出そう……中に出すよ。

赤ちゃん作ろう。僕と姉さんの子、絶対かわいいから」

ストラ、体を伏せて本気ピストン。

1 【終わりに向かう吐息のみ30秒程度】

2
3 【3 耳元】

4 スト「ああイク、姉さん、姉さん、姉さん……！【フィニッシュ】」

5
6 SE::射精音

7 SE::水音ストップ

8
9 スト【多幸福感に包まれて】あー……好き。

10 姉さんの事好き、大好き。好き好き好き本当に好き。

11 ね、幸せにするからね。

12 姉さんのこと、絶対に幸せにするから」

13
14 スト「早く先生の事なんて忘れちゃってよね」

15
16 【ストラのセリフの途中からノイズを入れて、ぶつんと切る】

17
18 時間が巻き戻り、駆け落ち前夜にクイノスの部屋で馬車を待っている
19 ところで、クイノスに揺り起こされるヒロイン。

20
21 時刻::夜

22 場所::クイノスの部屋

23
24 【2 このセリフフェードイン】

25 クイ「お嬢様……お嬢様？ 眠ってしまったんですか？」

26
27 【飛び起きるヒロイン】

28
29 SE::激しい衣擦れ

30 SE::ソファの軋み

31
32 【2→7】

33 クイ「うわ！

34 大丈夫ですか？ すごい汗だ。

35 怖い夢でも……おっと！」

36

⑤
⑦

なと3

1 【ヒロイン、クイノスに抱き着く】

2
3 SE…抱き着く衣擦れ

4 SE…ソファの軋み

5
6 【7】

7 クイ「どうしたんです？ また子供みたいに抱き着いて。

8 よほど怖い夢を見たようだ」

9
10 【ヒロイン「ストラにさらわれる夢を見ました」】

11
12 クイ「はっとして」ストラに、さらわれる……？

13 不思議ですね。僕もあの子の夢を見ました」

14
15 クイ「これも神のお告げか何かでしょう。

16 明日、出発前に彼に少し話をしてきます。

17 あなたをさらったりしないように」

18
19 【ヒロイン「危なすぎます！」】

20
21 クイ「大丈夫。

22 ストラは優しく、思いやりのある子です。

23 それは私たちが一番知ってるはずでしょう？」

24
25 【ヒロイン「でも……」】

26
27 SE…ドアノック

28
29 クイ「さあ、迎える馬車が来ました。

30 あなたは何も心配せず、明日、朽ちた教会で会いましょう」

1 **トラック7 たとえ神が許しても**

2 ヒロインが廃墟で待っていると、クイノスが真っ青になって駆け込んでく
3 る。

4 ストラの説得に失敗し、咄嗟の行動で殺してしまったのだ。

5 殺人の罪に苦しみ、怯えるクイノスを慰めるヒロインだが再び時間が巻き
6 戻る。

7

8 場所：廃墟

9 時刻：夜

10

11 **SE：ドアを開き、すぐ閉じる**

12

13 クイノス、人を殺した直後なので緊張し、うろたえている。

14

15 **【9】**

16 クイ「【切迫しつつもゆっくりと】お嬢様、状況が変わりました。
17 今すぐお屋敷にお戻りください」

18

19 **【ヒロイン「どうかしたの？」】**

20

21 クイ「説明している時間はありません。
22 とにかく急がなければ。さあ、馬車にのって」

23

24 **SE：拒絶の衣擦れ**

25

26 **【ヒロイン「ストラのところに行っただんですね？」】**

27

28 クイ「そう……そうです。

29

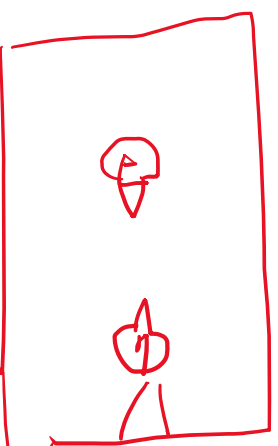
30 ストラのところに行き、話をしました。

31

32 あなたとともに街を出ると。

33

34 するとあの子は「先生が消えれば、姉さんも諦める」と、
35 そう言って私に襲い掛かって……！」



【9】

クイ「祈り 早口」憐れみ深き聖なる神よ。

我が罪が御名のもとに清められんことを」

ヒロイン、クイノスの歩み寄ろうとする。

SE:足音数歩

SE:衣擦れ

クイ「いけません！ 私のそばにきては……！
あなたまで穢れてしまう」

【ヒロイン「私は気にしません」】

クイ「いいえ。……いいえ、よく聞いてください。
私はあの子からナイフを奪おうとしました。
もみ合ううちに、二人とも倒れて……」

クイノス、うつむき、両目を手で覆う。

クイ「気が付くとあの子の胸に、ナイフが」

SE:驚愕の衣擦れ

クイ「最後の瞬間、あの子はあなたを呼び続けていました。
姉さん、姉さんと。
私はそんな彼の遺体を残してきました」

クイ【ヒロインを見て】あなたが馬車に乗ったら、
私は市庁舎に行き、罪を告白するつもりです。
その日のうちに私は逮捕されるでしょう」

SE:否定の衣擦れ

1 【ヒロイン「逮捕されれば死罪になります」】

2
3 クイ「ええ、そうなるでしょう。」

4 貴族殺しは死罪と決まっている」

5
6 【ヒロイン「あなたが死ねば私も死にます」】

7
8 クイ「なぜそんな恐ろしいことを考えるのですか……！」

9 私が死罪になるからと言って、

10 あなたが死ぬ理由などない！」

11
12 クイ「聞いてください。私と一緒にいれば、

13 お嬢様も縛り首になる。

14 よくても一生幽閉です。

15 私はあなたをそんな目に合わせたくはありません」

16
17 クイ「国外に逃げたところで、いつかは……。」

18 お嬢様、どうか……私のことは忘れてください」

19
20 【ヒロイン、隙についてクイノスに走って抱き着く】

21
22 S E:足音

23 S E:抱き着く衣擦れ

24
25 【3】

26 クイ「お嬢様!? 離れてください。罪人に抱き着くなど……！」

27 誰かに見られれば言い逃れができなくなる【途中キスされる】

28
29 【ティープキス十秒ほど】

30
31 【1】

32 クイ【泣きそうに】どうしてあなたは、

33 私などを、そんなにも……」

34
35 【ティープキス10秒ほど】



1 【ヒロイン「一人で生きるより、あなたと死にたい」】

2
3 【1】

4 クイ「お嬢様……あなたのその言葉が、
5 どれほど嬉しく、苦しいか」

6
7 【ティープキスしつつセリフ散らしていただけますと】

8
9 クイ「朝にはきつと衛兵が来ます」

10 クイ「私を捕えに来る」

11 クイ「怖くてたまらないのです、私は」

12 クイ「あなたを巻き込んでしまうことが」

13
14 【キスの吐息のみ10秒ほど】

15
16 ヒロイン、キスしながら服を脱ぐ。

17
18 S E:脱ぐ衣擦れ

19
20 クイ「うろたえて」お嬢様、何を……!?

21 上着を着てください、風邪をひいてしまう」

22
23 【ヒロイン「そうならないように抱きしめていてください」】

24
25 クイ「【困って】私がいくら抱きしめたところで……」

26 奥に、もう一つ部屋があります。

27 そこに……【軽く咳払い】ベッドも、ありますから」

28
29 【ヒロイン「連れて行ってください」】

30
31 クイ「ああ……こんな状況だというのに、

32 あなたは子供みたいに無邪気なんですね。

33 さあ、私の首に腕を回して。

34 ベッドまでお連れしましょう、お嬢様」

35

SE:抱き上げる

SE:足音

【7 耳元】

クイ「祈り ゆつくり」憐れみ深き聖なる神よ。

我が罪が御名のもとに清められんことを。

我に正しき道を歩む力を与えたまえ」

SE:ドア開ける（押せば開く感じのきいーでいいです）

クイ「祈り ゆつくり」我に正しきを知る魂を与えたまえ。

我に悪しきを正す勇気を与えたまえ」

【ヒロイン「これは罪でしょうか？」】

クイ「うん？ ああ、祈り……すみません、無意識に。

血で穢れた手であなたに触れようというのです。

これが罪でなくてなんだというのか」

SE:足音ストップ

クイノス、ヒロインをベッドにおろす。

SE:ベッドの軋み

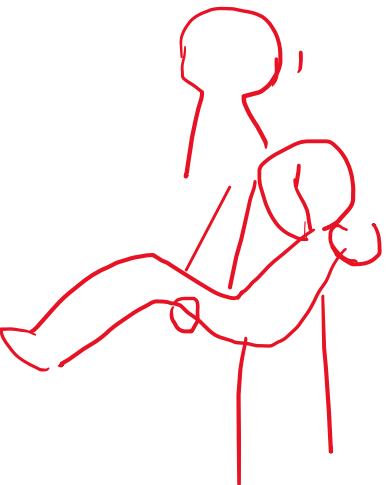
SE:衣擦れ

【1】

クイ「神が許したところで、私は自分を許せない【言い終わりでキス】」

SE:ベッドの軋み

SE:服を脱ぐ感じの衣擦れ



以降ベッドでほぼ対面しつついちゃついています

1 キスをしながらお互いの服を脱がせあうヒロインとクイノス。
2 ヒロインの膣に触れ、すでに濡れていることに驚く。
3

4 S E::触れる水音

6 【7 耳元】

7 クイ「キスだけで、こんなに濡れて……」

8 【急に耳元で】なんと罪深く、淫らなお嬢様だ。」
9

10 クイ「おや？ 耳も感じますか？」

11 恥ずかしがらないで、普通の事です。

12 このまま耳にキス、してみましようか」
13

14 【耳舐め30秒程度 浅いところ舐めてから奥に舌ねじ込むような過程の
15 変化ほしいです 舐めつつセリフ混ぜてください】
16

17 クイ「くすぐったいですか？」

18 クイ「ふふ、耳真っ赤にして……可愛いですね」

19 クイ「舌、入れますよ」
20

21 【耳舐めの吐息のみ30秒ほどください】
22

23 ヒロイン、耳舐めだけで絶頂。
24

25 S E::衣擦れ

26 S E::ベッドの軋み
27

28 クイ「耳、舐められただけで絶頂を？」
29 よほどお気に召したようだ。

30 ああ、こちらますます濡れて、溢れて……」
31

32 S E::水音ねちねち
33

34 クイ「ああ、ほら指。簡単に入ってしまうな」
35

36 S E::指挿入

1
2 【7 耳元】

3 クイ「ね？ 奥までのみ込んだ。
4 優秀過ぎて、私が教えられることは何もなさそうですね」
5

6 【ヒロイン「早く先生としたい」】
7

8 【7 少し離れて】

9 クイ「悪い子ですね。そんな風に私を煽って。
10 せめて優しく思っていたのに」
11

12 S E：指抜く水音
13

14 クイノス、ヒロインの両脚を抱えて挿入。
15

16 S E：衣擦れ

17 S E：ベッドの軋み
18

19 【1】

20 クイ「痛かったら、そう言ってください。
21 どうか、我慢はしないで【挿入の吐息】」
22

23 S E：挿入する水音ゆっくり※ある程度でストップ
24

25 クイ「わかりますか？ 奥、届いてる。
26 あなたの中、熱くて……

27 ああ、すみません。余裕がありません。
28 あなたをめちやくちやに犯したくて
29 頭がどうにかなりそうだ」
30

31 【ヒロイン「めちやくちやに犯してください」】
32

33 クイ【苦しげに】覚悟もなく、
34 そんなことを言うものではありません。
35 ですが……優しくもできそうにない。
36 腕、首に回して」

【3 耳元】

クイ「動きます。辛かったら肩を噛んで。
——たぶん、それでも止まりませんが」

【ガン突きの吐息1分程度】

SE::衣擦れ

SE::ベッドの軋み

SE::肉を打つ音

SE::水音

クイ「ああ、締まるな……

イってるんですか？ 本当に驚きですね。

自分でたくさん触っていたんですか？

私を想って、毎晩？

私をそんなに煽って、一体どうしようというのです」

【ガン突きの吐息1分程度】

【ヒロイン、辛くて肩を噛む】

SE::噛むSE 一応入れてみてください

クイ「痛った……！ ああ、辛いですね。かわいそうに。

そのまま噛んでいてください。

もう少し、我慢して……！」

【終わりに向かう吐息 こらえる感じで苦しげにフィニッシュまでもって
いってください】

SE::射精音

SE::水音周りストップ

クイ「浅くて荒い呼吸しばし」……っふふ」

1 クイノス、伏せていた体を起こす。

3 【1】

4 クイ「不思議ですね。

5 肩、血が出るのに少しも痛くありません。

6 貴女が噛んでくれたからでしょうか」

8 クイ「疲れたでしょう？ さあ、眠って。

9 おやすみなさい、お嬢様。

10 愛しています、心から。

11 だから……これであなたとはお別れです」

13 SE:驚愕の衣擦れ

15 クイ「どうしても、あなたを巻き込みたくない。

16 私に無理にさらわれたと言ってください。そうすれば」

18 【クイノスのセリフの途中からノイズを入れて、ぶつんと切る】

20 時間が巻き戻り、駆け落ち前夜にクイノスの部屋で馬車を待っている
21 ところで、クイノスの叫びで目覚める。

23 時刻…夜

24 場所…クイノスの部屋

26 【10 このセリフをフェードイン】

27 クイ「馬鹿な！ どうなってる!!」

28 またこの日に戻ってくるなんて……!」?

30 【ヒロイン「戻ってくる……?」】

32 【6】

33 クイ「あ、ああ……お嬢様。

34 すみません、少し混乱しています。

35 白昼夢を、みたようで……」

5

1

5
1
3

1 【ヒロイン「同じ夢を見ていたかもしれません」】

2
3 【9】

4 クイ「同じ、夢を……？」

5 【はっとして】確かにあなたは、

6 ストラにさらわれた夢を見たと言っていました。

7 では今は……私がストラを殺した夢を？」

8
9 S E：肯定の衣擦れ

10
11 クイ「どうしてこんなことが……。

12 ただの夢とは、とても」

13
14 S E：鎖の音

15
16 クイ「お嬢様、そのペンダント……まさか魔女の店で？」

17
18 S E：肯定の衣擦れ

19
20 クイ「実は私もそれを売られそうになって……断ったんです。

21 【少し困って】なにせ、聖職者ですから。

22 ですが、これがたとえ神の意に反した魔女の気まぐれだろうと…

23 この瞬間に戻ってこられた。

24 それに変えられるほどの信仰心など、私にはありません」

25
26 【ヒロイン「やはり、今すぐ町を出しましょう」】

27
28 クイ「いいえ、すぐに街を出たところで、

29 ストラは追ってくるでしょう。

30 【ちよっと嫌そうに】…ひとつだけ、方法が。

31 おそらくこれが一番確実です。

32 何せその提案を断ったせいで問題になったので」

33
34 【ヒロイン「c.c.」】

35
36 クイ【苦笑い】今から一緒に、ストラのところに行きましょうか」

1 **トラック8 もうこれでいつか**

2 ストラを敵に回せないなら、ストラを味方に引き入れてしまおうというわ
3 けで、三人で街を出ることに。

4 二人にラブラブに抱きつづされトラック。

5
6 場所：港町

7 時刻：夜

8
9 SE:波の音

10 SE:ドアを開く

11 SE:足音3人分

12
13 宿に足を踏み入れ、元気に荷物をおろすストラ
14

15 【15 部屋を見回しながら】

16 スト「ついたー！ えー、海も見えていい部屋じゃん。

17 見て見て！ ベッドちよーでつかい！」

18
19 【11】

20 クイ「あなたのわがままで、一級の宿をとりましたからね。

21 まったく、無駄遣いはできないと言っているのに」

22
23 スト「いい宿は無駄遣いじゃないよ先生。

24 お金だって、母さんが飽きた宝石とか

25 全部かき集めて持ってきたから余裕あるし」

26
27 クイ「【たしなめるように】それは泥棒でしょう」

28
29 スト「母さんは見栄っ張りだから、僕が宝石盗んで家出したなんて

30 絶対に言えないから、なんか適当に理由つけて

31 丸く収めてるよ。

32 【15↓9】 いえーい！ ベッド一番のりー」

33
34 SE:ベッドにダイブ

1 【9】
2 スト「スプリングいい感じ。
3 ここでえっちしたら絶対気持ちいいね」
4

5 【11】

6 クイ「え……なんですって!？」
7

8 スト「え、なに？ するんでしょ、えっち。
9 逆に駆け落ちに誘ってくれたのに、
10 自分だけ姉さんとかえっちする気だったの？」
11

12 クイ「そ……いえ、ですからそれは……
13 今ではなくおいおい、
14 それぞれのタイミングで
15 お嬢様が良いと思った時に」
16

17 スト「えー？ それっていつ？
18 明日？ 船の上？」
19

20 クイ「【咳払い】とにかく、今は無事に国を出て、
21 落ち着ける家を見つけることが先決です」
22

23 スト「【探るように】家って……僕たち三人の？」
24

25 クイ「ええ。私たち三人の——ですよ？ お嬢様」
26

27 END
28
29